



2017年11月6日

各位

会社名 日産化学工業株式会社
 代表者名 取締役社長 木下 小次郎
 (コード番号 4021 東証第1部)
 問合せ先 執行役員財務部長 吉田 洋憲
 (TEL 03-3296-8356)

業績予想の修正、剰余金の配当（中間配当）および期末配当予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、2018年3月期の通期業績予想を下記の通り修正いたしましたので、お知らせします。
 また、2017年11月6日開催の取締役会において、2017年9月30日を基準日とする剰余金の配当（中間配当）を決議するとともに、2018年3月期の期末配当予想を修正いたしましたので、合わせてお知らせいたします。

記

1. 業績予想の修正について

(1) 2018年3月期 通期連結業績予想数値の修正（2017年4月1日～2018年3月31日）（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A) (2017年8月4日発表)	189,000	32,500	33,300	25,200	167円33銭
今回発表予想 (B)	192,000	34,500	36,100	27,000	179円23銭
増減額 (B-A)	3,000	2,000	2,800	1,800	—
増減率 (%)	1.6%	6.2%	8.4%	7.1%	—
(ご参考)前期実績 (2017年3月期)	180,289	31,438	31,713	24,026	156円97銭

(2) 2018年3月期 通期部門別連結売上高および営業利益予想数値の修正（単位：億円）

		前回発表予想	今回発表予想	増減
売上高	化学品	355	351	△4
	機能性材料	576	585	9
	農業化学品	563	582	19
	医薬品	69	73	4
	卸売	615	603	△12
	その他	217	214	△3
	調整額	△505	△488	17
	計	1,890	1,920	30
営業利益	化学品	36	37	1
	機能性材料	123	139	16
	農業化学品	156	156	0
	医薬品	9	10	1
	卸売	20	20	0
	その他	5	7	2
	調整額	△24	△24	0
	計	325	345	20

(3) 修正の理由

通期の業績予想につきまして、当第2四半期累計期間の実績および下半期の見通しを踏まえ、前回発表予想を修正いたします。当第2四半期累計期間におきましては、主にディスプレイ材料製品、動物用医薬品原薬の出荷が好調に推移しました。下半期におきましても、各製品の販売は概ね堅調に推移すると見込んでおります。

2. 剰余金の配当（中間配当）および期末配当予想の修正について

(1) 剰余金の配当（中間配当）の内容

	決定額	前回配当予想 (2017年8月4日発表)	前期実績 (2017年3月期 中間)
基準日	2017年9月30日	同左	2016年9月30日
1株当たり配当金	32円00銭	28円00銭	24円00銭
配当金総額	4,814百万円	-	3,667百万円
効力発生日	2017年12月4日	-	2016年12月5日
配当原資	利益剰余金	-	利益剰余金

(2) 期末配当予想の修正の内容

	年間配当金		
	第2四半期末	期末	合計
前回発表予想（2017年8月4日発表）	28円00銭	32円00銭	60円00銭
今回修正予想	28円00銭	34円00銭	66円00銭
当期実績	32円00銭	32円00銭	64円00銭
前期実績（2017年3月期）	24円00銭	28円00銭	52円00銭

(3) 修正の理由

当社は、中長期的に事業収益を拡大し、財務体質を強化することで企業価値の向上に努め、株主の皆様への積極的な還元を図ってまいります。なお、株主還元につきましては、2016年4月に始動した中期経営計画「Vista2021」において、配当性向を2019年3月期に向けて40%まで段階的に引き上げることに加え、総還元性向70%の維持を目標としております。

上記方針および業績予想の修正を踏まえ、中間配当を前回予想1株当たり28円から4円増額し32円、期末配当予想を1株当たり32円から2円増額し34円といたします。これにより、年間配当は1株当たり66円（配当性向36.8%）となる見込みです。

※上記の予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想値と異なる場合があります。

以上